

第4回 九州大学箱崎キャンパス跡地利用将来ビジョン検討委員会 議事録

開催日時：平成24年10月25日（木）16：00～18：00

場所：九州大学箱崎キャンパス 創立五十周年記念講堂大会議室

会次第

1. 開会
2. まちづくり方針（案）への意見募集について
3. 導入機能の検討について
 - ・民間アンケート調査結果について
4. 都市基盤及び空間構成の考え方、土地利用ゾーニングについて
5. 跡地利用（処分）の進め方について
6. 閉会

議事録

1. 開会

事務局
（岡野）

それでは、開会に先立ちまして、事務局からご連絡申し上げます。私は、九州大学の岡野でございます。本日お配りしております資料の確認をさせていただきたいと思っております。上から順番に、会議次第、座席表、【資料1-1】としまして委員会資料、【資料1-2】としまして委員会資料参考資料、【資料2】としまして意見募集資料の5点となっております。皆様、全てお手元にそろっていらっしゃいますか。よろしければ、次に進めさせていただきたいと思っております。

本日の会議も、これまでと同様、公開ということで行います。本日、傍聴される方につきましては、受付にてお配りしました「傍聴にあたっての注意事項」に記載されている事項を順守していただき、委員会の円滑な運営にご協力いただきますようお願いいたします。特に携帯電話はマナーモードにするか、電源をお切りいただくようお願いいたします。

また、報道関係者の皆様におかれましても、委員の皆様が発言、議論や一般の方の傍聴の妨げにならないよう十分ご配慮をお願い致します。

ここで、議事に移る前に、カメラ等での撮影の時間をとらせて頂きます。報道関係者の方による、前方に移動しての撮影は、この時間のみとさせていただきますので、ご了承ください。それでは報道関係者の皆様、前方へご移動をお願いいたします。

（カメラ撮影）

報道関係者の皆様、ご協力ありがとうございました。それでは、これより会議の進行は、出口委員長をお願いいたします。

出口委員長

皆様、こんにちは。この委員会の委員長を仰せつかっております、東京大学の出口です。よろしくお願いいたします。前回、第3回の委員会は7月6日開催でしたので、約3ヶ月半、間があいております。前回の委員会後に、当初の予定にはなかったパブリックコメントを実施しました。これは、委員会の中で、もっと幅広く市民の皆様、地元の方々の意見を聞くべきではないかという強いご意見、ご要望いただきましたので、それに沿うような形でパブリックコメントを実施して頂きました。結果を取りまとめるのに多くの時間を要しますが、この3ヶ月半の間に大きな仕事を事務局の方々

	<p>に進めていただきました。前半、そのご報告がありますので、ご意見いただきたいと思ひます。よろしくお願ひします。それでは、開会いたします。</p> <p>お手元の会議次第に沿って進行させていただきます。本日の委員会は、前回検討しました「まちづくりの方針（案）」に対する市民意見募集の結果の報告と、別に九州大学が行った調査ですが、民間企業に対する導入機能の検討についてのアンケート調査結果の報告があり、その後、都市基盤及び空間構成の考え方、土地利用ゾーニングについて、更に跡地利用処分の進め方、考え方に関してご議論いただくことにしております。</p> <p>限られた時間ではありますが、委員の皆様より活発な、また建設的なご議論をお願ひしたいと思いますのでご協力の程、よろしくお願ひいたします。</p> <p>資料の説明を含めて、全体をご説明いただき、その後、二つに分けて、質疑、意見交換をさせていただきたいと思ひます。効率よくご説明いただくよう、事務局にもお話ししておりますので、よろしくお願ひいたします。</p> <p>それでは、岡野課長、よろしくお願ひいたします。</p>
<p>事務局 (岡野)</p>	<p>議事に入る前に、本日の出席状況についてご報告します。国土交通省九州地方整備局の岸委員、福岡県企画・地域振興部の吉岡委員についてはご欠席のご連絡を受けております。</p> <p>それでは、議事2の「まちづくりの方針（案）」への意見募集について、福岡市林課長よりご説明します。では、お願ひします。</p>
<p>2. まちづくり方針（案）への意見募集について</p>	
<p>事務局 (林)</p>	<p>皆さん、こんにちは。福岡市九大跡地計画課長の林と申します。改めてどうぞよろしくお願ひいたします。それでは、お手元の【資料1-1】に沿って、説明させていただきます。1Pめくっていただき、第4回委員会の検討内容というフローをご覧ください。今回につきましては、前回の第3回から導入機能の検討に入らせていただいておりますが、市民意見募集を得た上で、その結果を反映させながら、都市基盤、空間構成、土地利用、跡地利用に関する事務局としての考え方を述べさせていただいてご議論の材料としていただきたいと思ひます。参考に右のほうに構成案として将来ビジョンを最終的にどのような構成でまとめて提言しようかということをもとめておりますので、ご確認下さい。</p> <p>一枚めくっていただきまして、2Pをお願いします。</p> <p>まちづくり方針案への意見募集についてということで内容をご報告させていただきます。</p> <p>意見募集につきましては8月27日から9月26日まで1ヶ月間行っておりまして、総配布部数350以上、市のホームページアクセス2,490件となっております。この中で、意見の提出数は47件、意見数としては127件を数えております。意見の47件というのはここ3年くらいの福岡市の各セクションで行ってきた意見募集のなかで2番目に多い数字となっております。かなり関心が高いと理解しております。</p> <p>意見提出者の属性として、住所の内訳は東区で6割弱、市外でも2割という結果が出ております。また年齢につきましても、20代～70代まで満遍なく出てきているという状況でございます。127件のうち、今回の意見募集の対象としております「まちづくりの方針」に対する意見は71件、その他導入施設の提案、要望等に関する意見は56件となっております。意見募集の対象となった方針案についての区分けにつきましては、方針4の「歴史文化」、方針5の「環境・エネルギー」が割合として多めに出てきています。意見への対応についての説明をその下に書かせていただいております。寄せられた方針案への意見、要旨については次の3Pから始まりますが、事務局の対応案としてご説明させていただいております。なお、5Pから6Pの導入施設の意見等については、今後、実施可能性を踏まえながら、まちづくりの参考にさせていただくという取り扱いで、それぞれ列挙させていただいております。</p> <p>また、当委員会でも若者の意見を聞くべきとの意見がございましたので、参考に2Pの一番下の点線囲みの部分で、20代、30代の回答傾向を載せております。他の世代に</p>

	<p>比べて人が集まる機能、教育関係施設、子育て支援機能が少し多いといった分析を載せております。</p> <p>3Pお願いいたします。意見募集対象のまちづくりの方針案への意見について、3、4Pにまとめて載せております。原案通りとする意見、追加修正を行う意見、今後の参考にさせていただく意見と、大きく3つに分けてそれぞれの意見に対して対応案を書いております。この意見要旨につきましては、出していただいた意見に出来るだけ忠実に、まとめております。3Pの方針2の5の生涯教育を追加すべきとの意見と、方針3の9の「若者や障害者にやさしいまちづくり」の観点が必要ではないかという意見が出てきてございまして、これについては追加・修正とすることでまちづくりの方針案へ反映をさせていただいております。追加修正案として5Pに示しており、方針2として充実した教育・研究の環境を生み出し、人を育てるという中で、生涯学習の場の導入ということを追加しております。そして、方針3の「安全・安心・快適で健やかに暮らす」なかで、若者、障がい者等すべての人を含めた表現として「だれもが」という言葉を追加をさせていただいております。</p> <p>では、6Pをお願いいたします。まちづくり方針案の意見募集の対象ではございませんが、導入施設等に関し、貴重なご意見をたくさんいただいておりますので、要旨をまとめております。これにつきましては、対象ではないので対応案はございませんが、今後の参考にさせていただくということで理解をお願いしたいと思います。参考に、別途、資料1-2参考資料の1P-3Pに出てきた導入機能を各方針で割り当てて示すかどうか、赤で追加しておりますので、後でご確認をお願いしたいと思います。</p> <p>市民意見の募集については以上です。</p>
--	---

3. 導入機能の検討について 民間アンケート調査結果について

<p>事務局 (岡野)</p>	<p>それでは、代わりまして、民間アンケート調査結果についてです。</p> <p>まず、資料一枚めくっていただきまして、アンケートを行いました趣旨と目的についてご説明させていただきたいと思っております。本アンケート調査の趣旨・目的ですが、第3回の委員会にて導入機能について議論いただいた際に、導入機能の事業性・持続性の検証、またその実現性そのものについていくつかご意見をいただきました。どのようにして検証するかを考えた際、やはり、箱崎キャンパス跡地のまちづくりの実際の担い手となる事業者の皆様へ直接の意向確認が必要と考え、今回、九州大学として、このアンケート調査を実施することといたしました。九州大学としては、もともと売主としてこうした需要調査が必要と考えておりましたが、今回、市民意見募集をしているこの時期にアンケート調査を実施させていただき、随時確認中の公共需要の確認と合わせて、民間需要の調査も行い、その結果をご報告しまして、導入機能についての参考にさせていただければという位置付けでございます。調査項目につきましては参考資料のほうにアンケート内容の資料をつけさせていただいておりますので、ご覧になっていただければと思います。</p> <p>調査の対象企業、機関でございますが、今回、314社に対して実施いたしました。回答のあった企業機関は53社でございます。回収率としては17%でございます。対象機関の業種につきましては、「まちづくりの方針（案）」に沿った企業、機関を中心に選定させていただいております。ページ右側四角囲みに記載している、新産業創造、業務商業、教育・人材育成、医療・福祉、生活利便、居住機能、環境・エネルギー、不動産・建設等からご回答いただいております。</p> <p>次のページをご覧ください。事業展開に伴う土地需要がございますかという質問に対して、「需要あり」「現在検討中または今後検討の可能性あり」を合わせると、21社の機関が需要ありとの回答をいただいております。</p> <p>需要のある時期については「2年」、「3年～5年」というご意見を多くいただいております。また、需要のある場所ですが、福岡市内が多く、福岡市内でも、天神・博多駅・箱崎地区が多くなっております。可能性ありと回答した21企業の中で、箱崎の可能性があるという会社が17社ございました。17社の中で、箱崎キャンパス跡地にどのような魅力を感じますかという質問に対しては、「鉄道の駅が近接している」、「大規</p>
---------------------	--

模な土地利用が可能」、「主要な幹線道路が近接」、「福岡都市部へのアクセスが良好」といった項目について、魅力を感じていただいているようでございます。

次のページをご覧ください。箱崎の可能性があるという17社への需要調査の続きでございますが、希望する施設の敷地面積では、5000～1万㎡までの意見を多くいただいておりますが、4万㎡以上という意見も多くいただいております。建物の規模としては、満遍なくどの面積規模にも需要がみられるという結果となっています。希望利用の用途としては、「住宅」・「商業」が高くなっております。ページの右側にいただきまして、希望のエリアとしては、A B C Dの四つに区切ってお尋ねしたところ、箱崎九大前駅周辺が少し人気が高いという結果になっております。

次のページをご覧ください。ここからは将来ビジョン検討委員会に関するご質問をさせていただきます。まず、まちづくり方針（案）への期待についてお聞きしました。結果としては、方針1～3に対しての期待が高いようでございます。市民意見募集については、比較的、方針4、5に対するご意見が多かったようでございますが、実際の担い手となられる事業者からみると、方針1～3への期待が高かったようでございます。また、望まれる導入機能につきましては、本委員会にて例示として出している機能について、まんべんなく、希望が出ていたということでございます。

次に、本委員会の認知度ですが、約半数の方には委員会が動いていることをご理解いただいているようでございます。近代建築物の有効利用についてもお尋ねしました。回答いただいた53社の中で、「できるだけ活用すべき」、「条件が合えば活用すべき」が50%以上でございました。箱崎への需要の有無に関わらず、すべての方の回答と考えていただければと思います。箱崎地区との競合エリアとしては「アイランドシティ・香椎パークポートエリア」や「香椎・千早エリア」を競合エリアと考える企業、機関が多いようでございました。

最後のページでございます。自由意見もいただいております。ここでは説明割愛しますが、ご参考にしていただければと思います。

調査結果のまとめでございますが、四点ほど挙げさせていただきました。

一つは、回答企業、機関に限れば、総じて箱崎キャンパスへの関心度は高く、箱崎地区のポテンシャルが再確認された結果となっています。

さらに、箱崎地区の魅力としては、交通アクセスの充実や大規模な跡地利用となることなどが評価されています。

まちづくり方針（案）については、「新たな産業・雇用の場の創出」、「交流と賑わいの創出」、「新たな高等教育・研究機関の導入」など、まちづくり方針（案）1～3までの内容に関する期待が高くなっています。

将来ビジョン検討委員会で検討されている導入機能について、満遍なくなくどの機能も期待されています。中でも、「新産業創造機能」、「医療・福祉機能」などへの期待が高くなっています。

以上、ご報告でございました。

4. 都市基盤及び空間構成の考え方、土地利用ゾーニングについて

事務局
(林)

続きまして、都市基盤および空間構成の考え方について説明させていただきます。12Pお願いします。この12Pの表につきましては、土地利用ゾーニングの考え方を含めまして、これまでの検討の流れと、今回事務局案として提案させていただいたものとのつながりを示したものでございます。一番左側にはまちづくりの方針、地区の優位性と課題、上位計画・関連施策、委員会意見等がございまして、それから、真ん中の13Pに示すこととなります都市基盤・空間構成検討の視点を示しております。その視点を踏まえまして、具体的に実現する方法としてどんなことを考えていかなければならないかというのが一番右の部分に示しております。それぞれ、都市基盤の考え方を14Pに、空間構成の考え方を15Pに、土地利用ゾーニングの考え方を16Pに示しております。ここで、土地利用ゾーニングの基本的な考え方として、黒で四角囲みをしているところがございますが、これは特に委員会の中で箱崎キャンパス跡地が多様な機能を持ちながら、まち全体の一体感を創出するというのも基本的な考えに入れるべき

と、また、周辺地域と調和、連携して発展すべきという意見を委員の方からも強くいただきましたので、基本的な考えとして加えさせていただいた上で、提案させていただきます。

13Pをお願いいたします。都市基盤・空間構成の視点です。①、②、③と丸囲みの番号で⑮まで振らせていただいております。都市基盤につきましては、「既存施設・魅力資源を活かす」、「まち全体の交通利便性を高める」、「新しい生活・活動の豊かさや安全性を向上させる」という三つの構成としています。中身を簡単にご説明しますと、①「既存樹木の活用」として、箱崎キャンパスとその周辺にある緑を生かすということ、②として、大学100年の歴史文化資源を活かしていくこと、③として、大学内の面影を継承したり、キャンパス内の通路を活かすということ、④として、既存の供給施設のライフラインを活かすということ、⑤、⑥は周辺とのつながりの部分を示しておりますが、⑤は水辺空間としての周辺にある、緑や水辺との共生、⑥としては文化資源との連携です。

二つ目に、まち全体の交通利便性を高めるということで、⑦貝塚駅の利便性の向上、⑧街全体の利便性向上につながる東西市街地を結ぶ動線の確保、⑨ゲート駅にふさわしい顔となる空間構成を進めるための箱崎九大前駅周辺における「顔」づくりの推進、⑩JR箱崎駅とのつながりづくりの推進、⑪としてバス利便性の向上をあげております。

⑫誰もが安心して暮らせるまちの実現として、ユニバーサル都市福岡の考え方に基づいたまちづくりを進めること、⑬公園の老朽化や視認性の確保、アクセス性の向上が課題となっている貝塚公園の活用の検討、⑭公園の適宜配置ということで、公園不足のエリアの解消ということ視点をあげております。

右の方には空間構成の検討の視点ということをあげております。こちらについても三つの項目をあげておりまして、一つ目はまち全体の一体感を創出する、二番目に大学100年の歴史と緑を活かす、三番目に100年後の未来に誇れるまちをめざすとしております。

まち全体の一体感につきましては、⑮統一感のある街並みによる一体感の創出、⑯歩行者動線、緑との連続性を確保することによる一体感の創出をあげております。二番目の大学100年の歴史と緑については、再掲になりますが、既存樹木の活用、歴史文化資源の活用、公園の確保等でやっていくべきではないかということを書いております。三番目の100年後の未来に誇れるまちをめざすということにつきましては、⑰として、緑化、オープンスペースの確保等について共通ルールを策定し、それに基づいたまちづくりを進める事で、まちの一体感を創出し、質を高めていくべきではないかと、また、⑱では、その共通ルールを運用し、持続的なまちづくりができるような組織を考えていくべきではないかということを書いております。

14Pをお願いします。今申しました視点につきまして、基本的な考え方を都市基盤について書いております。左上の一つ目は少し繰り返しになりますが、箱崎キャンパス内の敷地内や緑地空間等を活かしていく、管崎宮等の歴史的資源、宇美川の水辺環境等と周辺を結びつけていくというようなことです。

二つ目としまして、歩行者自転車快適安全に利用できる緑豊かな交通ネットワークの充実をさせるということと、周辺を含めたまち全体の交通利便性を高めるということを書いております。三つ目は、新しい生活・活動の豊かさや安全性を向上させるものとして、緑豊かな公園整備、災害に強いライフラインの整備等による安全性の向上とユニバーサルデザインの導入ということを書いております。具体的にもう少し詳しく書いているのがその下の部分でございまして、1の既存施設・周辺魅力資源を活かすとして、1)箱崎キャンパス内の既存敷地内通路を活かす、2)として、箱崎キャンパス内の既存緑地等を活かした公園整備、3)インフラの活用、周辺施設を結ぶルートづくりとして、4)管崎宮、町家等の歴史的資源を活かし、わかりやすく快適に歩ける緑豊かなルートをつくる、5)として、宇美川の水辺を回遊ルートとしてつないでいくこと、6)として、JR箱崎駅へのアクセスの向上を検討ということをお示しております。

二つ目のまち全体の交通利便性を高めるというところにつきましては、7)として東西市街地の分断を解消して、周辺地区も含めたまち全体の利便性を向上させるための東西道路の整備、8)として各施設への徒歩・自動車等によるアクセス性を高めるための必要に応じた道路整備、9)として、既存の緑を活かしながら快適に歩ける歩行者、自転車空間の整備というのを書いてあります。また、鉄道駅周辺の空間づくりも大事なものとして挙げておまして、10)として、箱崎九大前駅周辺において、人が憩い、交流できる空間づくりをめざすこと、11)として、貝塚駅周辺のバス、自家用車等の更なるアクセス性の向上といったこと、それと全体的にバス利便性向上というのをお示ししております。

三つ目の新しい生活・活動の豊かさや安全性を向上させるというところですが、13)としては周辺地域からの利用にも配慮しながら、災害時にも活用できる公園整備や適正規模の公園の配置を図っていくこと、14)貝塚公園の効果的な整備や活用方法を考えること、また、供給処理施設等ということで、15)として、中水道の活用、防災や景観に配慮した電線類の地中化等も検討というようなことをあげています。片括弧のついた文言がこの地図のなかにあります、こういったところで実現すべきかということイメージ図として書かせていただいております。

次に15Pをお願いいたします。これは、空間構成の考え方になります。基本的な考え方として、一つ目は、まちの一体感を創出するということで統一感のある街並み景観形成や人の出会いや交流を生み出すオープンスペース等により、まち全体の一体感を創出すべきだといったことを書いてあります。二つ目は、大学100年の歴史と緑を引き継いで面影と記憶を継承するための近代建築物や既存樹木等を新たなまちづくりの中で活かしていくということ、三つ目に100年後の未来に誇れるまちづくりをめざしていくということで、地元、福岡市、九州大学、事業者等多様な主体が共通のルールに基づいて、持続的にまちづくりに取り組むことによって、100年後の未来においても誇れるまちづくりをめざしていくということ、また、誰もが思いやりを持ち、すべての人にやさしいまちを実現するために、ユニバーサルデザインの導入を進めるということを書いてあります。

もう少し具体的に示したものがその下の部分です。

まち全体の一体感を創出するなかで、1)に街並み景観の誘導をあげています。建築物の高さ、デザイン、広告物等の規制等に関するデザインのルールづくりを進めること、それによって、統一感のある街並み景観の形成を進める。また、立花山、三日月山への視線を活かす等、周辺環境に配慮した景観形成を進めるということを書いてあります。3)には一体的な街角空間の形成を書いておまして、右の空間イメージに新規道路や大学内の既存道路が交わっている公共の道路の交わる街角において、街角広場を整備して、統一したデザインやオブジェの配置によって、まちの一体感を創出していく仕掛けづくりを進めること、また4)として、各街区に立地する出入口を街角空間に向けて、人が交流を生み出す仕掛けづくりを進めるということを書いてあります。また、道路だけでなく、敷地内における歩行者空間を確保していくべきだというのが5)のところでございます。敷地内でも歩行者が安全に歩け、連続性のある歩行者空間を確保していくことで回遊性を高めてそれぞれの敷地同士の一体感を高めていくことが必要ではないかということを書いてあります。また、7)として、歩行者空間においては憩い、休める場所の整備など歩いて楽しい空間づくりを進めることが必要ではないかということを書いてあります。次にオープンスペースの確保ですが、各敷地内において、働く人や訪れる人が気軽に憩える、集えるコミュニティの場の形成や、災害時の一時避難スペースになるオープンスペースの確保を進めるということで、イメージ図の左下に丸い緑を書いてありますが、こういうスペースを確保しながら、民有地内のなかで公的な空間を作っていくかというようなこととございます。それから、敷地内における緑化の推進ということで、10)として、民有地内についても積極的に緑を生み出すと同時に、緑の保全も行いながら、まち全体として緑豊かな空間づくりを進めていこうということ、次に、一体的機能の導入ということで、それぞれの街区に配置する機能につきましては、連携補完する機能を配置するというところで、機

能的にもまちの一体感づくりを進めるということを書いております。

二つ目の大学100年の歴史と緑を活かす部分ですが、まずは既存樹木の活用を書いておりまして、12)として、既存樹木については樹種、樹形、樹齢等の様々な条件に配慮しながら、現地保存や移設なども含めて検討していくと、13)には既存の緑地等を活かしながら新たな公園、緑地の配置、整備を進めるということ、歴史文化資源の活用として、14)近代建築物については建物の価値、重要性を考慮しながら、保存・活用を検討するという、15)としては、九州大学の記憶の継承ということで、記憶の証として小さな看板、照明等を含め、そこにあったことをまちのあちこちに残していけないかというようなこと、それらをつないで、記憶をたどることができる歩行者ネットワークづくりを進めたらどうかというようなことを書いております。イメージ図でいうと、右のほうにオレンジ色の線で書いておりまして、既存のものや記憶を継承するものをつないでいって、それが街区をこえて、つながっていくような回遊をというようなイメージで書いております。

三番目に、100年後の未来に誇れるまちづくりをめざすということで、17)としては、一体感のあるまちづくりを実現するため、それを担保するような全体で共通したデザインのルールづくり等を検討するといったことを書いています。18)としましては、そのルールづくりに地元、福岡市、九州大学、事業者等、多様な主体の参加を促し、策定を進めること、19)は持続的なまちづくりの運営として、共通のイメージに基づいたまちづくりの推進を担保するために、まちづくりの運営を行う組織の設立等の仕組みづくりについても検討すべきではないかということを書いております。

16Pをお願いします。土地利用のゾーニングについてですが、今回につきましては土地利用の配置、各方針に沿ってどのあたりに機能を配置するのが適当かを示してございます。こちら一番左上に基本的な考え方を書いておりまして、一つ目は周辺との調和に配慮した「土地利用ゾーニング」に基づいて機能誘導を図り、「空間構成の考え方」に基づいたまちづくりを進めることによって、まち全体の一体感を創出することが大事であること。また、周辺地域との調和、連携に配慮しながら、まち全体の利便性の向上や魅力向上につながるような都市機能の配置を進め、周辺地域との一体的な発展をめざすことが必要だということ、周辺地域との交通利便性や防災性の向上につながるような道路・公園等の都市基盤づくりを進めることが大事だということなど基本的な考え方を書いております。

箱崎キャンパスの周辺部の状況をとらえますと、左側の国道3号線、駅周辺地域としては鉄道駅が非常に近い地域で車でのアクセスが非常に便利なところとして、すでに商業施設や飲食店等が見られるというところから、この部分については、まちづくりの方針1の「成長・活力・交流」を生み出す機能配置を進めるゾーンが適切なのではないかとここでここに矢印を引っ張っております。

右上に行っていただきまして、JR鹿児島本線沿線地域と書いてありますが、ここは今でも住宅系の土地利用が多く、管崎土地画整理事業も行っていて、航空機の騒音も比較的影響を受けにくいということで「安全・安心・健やか」な環境を作っていくところとして、方針3をあてはめております。

右下の箱崎キャンパスから管崎宮までの区域ですが、こちらはキャンパス内も近代建築物が立地しており、キャンパスの南側には管崎宮等の歴史・文化資源が豊富なこと、また九大病院も南側にありますので、こういったことを踏まえ、方針2、方針4をまとめて教育・文化の環境、歴史文化資源を活かすゾーンということで南側に配置させていただいております。

全体としましては、真ん中上に示すように、環境と共生し、再生エネルギーを積極的に活用するというまちづくり方針5を地区全体にかけております。このように、方針を実現するある程度の配置が考えられるのではないかとご提案でございます。

説明としては以上ですが、資料1-2の参考資料に前回の委員会で意見をいただいた宿題として、市のマスタープランの現在の状況と財政状況について説明しております。まず、9P総合計画については現在、パブコメが終わったところで、集計中と聞いております。そのなかで、市の基本構想の真ん中あたりにありますが、都市像として、

	<p>「住みたい、行きたい、働きたい、アジアの交流拠点都市・福岡」ということを入れております。第9次の基本計画としては、都市系の基本戦略として、生活の質の向上と都市の成長の好循環を作り出す、福岡都市圏全体として発展し、広域的な役割を担うということを書いております。その中で、右のほうに箱崎のキャンパスの位置付けを抜粋しております。この都市空間構想図のなかで箱崎キャンパス跡地の位置付けにつきましては、機能を充実転換する地区と赤囲みしておりますけれども、当地区は市街地内の貴重な大規模活用可能地として、大学移転進捗を踏まえ、新たな都市機能の導入などを検討する地区という位置付けを原案でしております。また、関連する東区のまちづくりの目標の中にも項目がございまして、このなかでも「歴史・文化、自然の魅力を生かし、新しい可能性を生み出すまち」と書いております。下の方には将来の都市活力の一端を担うポテンシャルを有しており、既存施設の活用、土地利用の転換による新たな都市機能の導入の検討を進めると書いております。</p> <p>10Pに財政状況のご質問がありましたので、ご紹介させていただきます。財政状況を左上から書いておりますが、黄色の四角囲みの部分に、短期的に縮減が難しい経費のウエイトが高くなっており、財政構造は硬直化している現状があると、そのなかでも、歳出の過去10年間の推移については、経常的な経費が非常に高くなってきているということです。ただ、投資的な経費も15～20%ずつ圧縮した予算配分を行ってきたので、市債残高は若干減ってきているというような状況を書いております。市債残高のグラフは下にある通りですが、平成16年をピークに減少をしております。ただし、右のグラフにあるように、福岡市が政令市で2番目に一人当たりの市債残高が高い現状もあり、依然として、市債を返していく負担は重いという現状を書いております。財政の今後の見通しを書いておまして、老年人口が増加する中で、昭和40年、50年に政令市になったときにできた公共施設の老朽化が出てきていますので、耐用更新の時期が来る、歳入については大幅な伸びが期待できないなかで、こういった状況を踏まえるとかなり厳しい状況があり、解消するために積極的に改革を進めていくということが書いてあります。真ん中の表には公共施設の長寿命化が必要な部分として、ちょうど30年以上経過した建物が今後更新を迎えてくることが書いてあります。一番下の表は少し見にくいのですが、黄色の四角で書いてある、重要事業の推進や新たな課題への対応のために使える財源というのが今後減ってくる、なかなか見通しが難しいということはこのグラフで示させていただいております。</p> <p>私からは以上です。</p>
事務局 (岡野)	<p>続きまして、跡地利用処分の進め方について、【資料1-1】の17Pでございます。九州大学企画部長三浦より説明させていただきます。</p>
5. 跡地利用（処分）の進め方について	
三浦委員	<p>九州大学三浦でございます。以前の委員会で、跡地利用・処分の進め方とここにはありますが、九州大学としてどのように考えているのかというお話がございました。ここでは、青い線で囲ってある基本方針ということで、赤字で四つ書かせていただいております。「将来ビジョンの実現」、「移転後の速やかな跡地利用」、「跡地全体について、統一感・一体感のあるまちづくりの推進」、「周辺地域との調和・連携」ということですが、この四つはレベルがかなり違っておりまして、「将来ビジョンの実現」というのは、この委員会で来年3月を目標に提言していくものでございますが、それを実現していくということがまさに基本的な考え方だと思っております。その下の三つは将来ビジョンに含まれる事柄だと考えております。今後、ご議論を進めていただき、提言に従って進めていくのだということに尽きると思っております。</p> <p>提言をいただいた後、どうなるかということについては、これから関係機関の方とご相談しながら、話を進めていかなければならない部分でございますので、イメージということで下に書かせていただきました。福岡市長、九州大学総長へ提言していただいた後、行政的な手続きも書いておりますが、関係各所とご相談させていただきながら、「将来ビジョンの実現」に向けて進めてまいりたいと考えております。</p> <p>今、発言をふっていただいたので、直接関連はないですが、国の平成25年度の概算</p>

	<p>要求の状況について報告させていただきます。平成24年度、昨年については大震災の影響、箱崎跡地処分の見通しがついていないということを経由に、箱崎の伊都キャンパスへの移転、大学では「第三ステージ」と呼んでいますが、これを見送るということになりました。平成25年度につきましては、跡地処分に向けて、本委員会も立ち上げまして、市民の皆様への意見募集もさせていただいているということで着実に進んでいますということを経由に説明させていただきました。福岡市にも重点事項ということで積極的に応援いただきまして、平成25年度の概算要求につきましては、「第三ステージの整備のうち、理学系施設については着手を認める」というご連絡をいただいております。第三ステージは、その他に、文系・農学系とありますが、文系・農学系については「具体的な状況を踏まえて、着手時期及び規模を判断する」ということになっています。毎年の進捗の様子を報告し、その状況をみながら第三ステージ全体については協議をしましょうということと理解しています。また、移転整備を円滑に進めていくために「跡地処分の積極的な取り組みの要請」ということもございます。あるいは今、福岡市の財政状況のお話があったのですが、国もたいへん財政状況が厳しいようございまして、「財政支出の軽減に寄与することを求める」ということも言われております。</p> <p>ただ、お陰様をもちまして、「第三ステージのうち理学系の着手を認める」ということになりました。この場を借りてお礼とご報告させていただきます。ありがとうございました。</p>
事務局 (岡野)	<p>もう一つ、九州大学から、近代建築物の調査検討状況につきまして、ご報告させていただきます。坂井委員お願いいたします。</p>
坂井委員	<p>この箱崎にございます近代建築物の評価をするためのワーキンググループを今泉理事の諮問機関として設置しています。委員は学外の歴史史料、建築の専門家、学内の芸術工学の専門家等を入れて、組織しています。4月からワーキングを始め、都合5回行っております。全体の評価作業が終わり、評価表を作成し、全体としてのまとめを今行っている段階でございます。多少時間を要しておりますので、次回にはご報告できるものと思っております。</p>
事務局 (岡野)	<p>それでは、出口委員長お願いします。</p>
質疑および意見交換	
出口委員長	<p>それでは、議題全体について、資料を使つての説明をしていただきました。これからは委員の皆様にご発言いただきたいと思います。議事次第にありますように、議題が大きく2～5までありますので、まず2、3までで質問、コメント等いただければと思っております。2のまちづくりの方針案への意見募集、パブリックコメント、3番目は九州大学が現在の土地を所有している機関として行ったということですが、実際にどのような需要があるのかということを経由しておくべきとのご意見もあったかと思っておりますが、そういった点に配慮して導入機能の検討についてのアンケートを取られたのだと思っております。その報告があった。この二点について、ご質問、ご意見あればお願いいたします。資料で申し上げますと、資料1-1の11Pまでです。</p>
山内委員	<p>議題3のなかの、民間アンケートの件で質問と意見があります。</p> <p>今、説明をされたような内容で、聞いていれば良いことだと感じるものですが、民間アンケート、企業アンケートをするとは事前に聞いていなかったのではないかと思います。市民意見を募集するということで、議論した記憶はありますが、そのときも民間アンケートの話は上がってなかったような気がします。なぜ、これが今日報告されたのかと疑問に思っています。これは、単に九州大学からの参考意見ということでもなく、きちんと将来ビジョン検討委員会の名前が報告に入っています。なぜこのような報告が今日あるのかということが1点質問です。アンケートというのは、具体的な事業の目的、またはいろいろなことを取り組む上で参考にするために、目的</p>

	<p>と中身を示して集めるものだと思います。自分たちの行う事業や方針と関係なく行うことは通常ないので、どういうふうに反映させるか、どうみているのかということを活用するために行うわけですから、そうみると、「まちづくりの方針に沿った企業」ということで説明がありましたが、「まちづくりの方針に沿った企業」というのはどういうことなのかと思います。その点を聞きたいと思います。反対に、沿っていない企業は別にあるのかということも聞きたいと思います。また、委員会で検討されていないことが、事務局を受け持っている福岡市と九州大学の名前で行われているのは、どういう立場や位置付けで行ったことなのでしょう。また、委員会に委員を出している都市再生機構に委託をされている点について、委託された都市再生機構も行うにあたって疑問を持ってよかったのではないかと思います。アンケート調査はもっと大事に扱うべきではないか、検討委員会で行うのであれば、検討委員会で議論の上でやる必要があると思います。</p> <p>内容で一つだけいいますと、全体としては3回の委員会における議論の中で細切れにせず活用できる計画をつくるべきだと、特に4校区協議会、我々は強く主張していました。今日の報告でもそのような趣旨が述べられていますが。このアンケートが報告されるというのは九州大学自身がそういうふうに考えていないのではないかと思います。委員会は表向きの報告で、実際には企業選定などが進められているのではないかとこの疑念を持ってしまいます。まだ協議中の場なので、調査結果を明らかにするとということになれば、協議を意図的に自分の都合のいい方向にもっていくというように思われても仕方がないのではないかと思います。本来、一体活用としてはどうすべきかというのを九州大学が提案するのがやるべきことで、一般的な企業アンケートの実施が本来するべきことではないのではないかと思います。</p>
箱嶋委員	<p>私も山内さんと同じ考えです。こういったアンケート結果を現段階で出されるのは悪く言えば、ある方向に誘導されていると取られても仕方がないのではないかと思います。アンケート結果をみると、結論的には九州大学が売れる方向で、不動産、マンション、大規模商業施設、そういうものが高いということなので、そういった可能性があるということ踏まえると、本資料のなかに載せるべきではないのではないかと思います。</p>
出口委員長	<p>今の山内委員からのご意見は大きく三点あったと思います。一つは議題3のアンケートとこの委員会の関係について、前回の委員会でもこの議題3のアンケートについては話をしておりません。私も話を聞いておりません。九州大学が独自に行ったということで先ほどご説明を受けたところです。二点目は資料7Pの調査の趣旨目的の部分で、まちづくりの方針に沿った企業機関というのはどのような定義なのかという点についてです。逆に、まちづくりの方針に沿っていない企業機関というのはどういうものなのか、どういうものを排除したのでしょうかということ。3点目はアンケート結果についてのご質問です。もう一点、調査委託として都市再生機構へお願いされたことの経緯についてですが、よろしく申し上げます。</p>
三浦委員	<p>ご懸念を抱かれるようなことをしまして、申し訳ありません。また資料の位置付けと綴じ方についても今ご意見いただき反省しております。</p> <p>経緯をご説明させていただきますと、この委員会の中でも実際の需要がどの程度あるのかを踏まえないと難しいのではないかとご議論がありました。本来であれば、九州大学としてもっと早くやるべきで、専門家の方々の話では、なぜやっていないのかといったものだったのですが、残念ながら行っていませんでした。そこで、前回の本委員会で、市民意見募集をするということが決まりまして、市民意見を募集するための資料が取りまとまったという段階が、良いタイミングであろうと判断いたしまして、市民意見募集の資料を付けた上で、実際の需要があるかを九州大学として調査すべきと考えた次第でございます。その際、我々はこういうアンケートに慣れていませんので、こういった時にはどのような質問をするのか、どういう方を対象にするのか、そういった点でプロである UR さんをお願いをしてご指導いただきながらアンケートをさせていただいたということでございます。九州大学としてアンケートを行</p>

	<p>ったわけですので、九州大学として結果を持っていけばいいということなのかもしれませんが、結果がまとまって、また議論の参考にもなればというつもりで本日出させていただきます。そういった意味では繰り返しになりますが、本委員会としてのアンケートや報告ということではありません。九州大学として行ったものでご参考になればと思っております。</p>
坂井委員	<p>山内委員がおっしゃったことはもっともなことで、今、三浦部長からお話があった通りなのですが、これからの提言にあたりまして、誘導するためにとられたアンケートではございません。これを基にいろいろなことを考えられるようになったのではないかと思います。</p> <p>また、九州大学が提案をするというお話がありましたが、最後に「跡地利用（処分）の進め方」として提案が一枚載っています。これを広げていくために使うことができればと考えています。「一体として」というワードも載っております。周辺の街並みとの調和をしっかりと取っていくべきであろうというのは変わりませんので、よろしくお願いいたします。</p>
貞刈委員	<p>資料の中にもありますが、事業スキームの基本方針というのは、施設整備費は跡地等を売却することで賄うということになっていますので、全体のビジョン作成と並行して、民間アンケートをされること自体は問題ないと思います。アンケートの中身を見ての感想ですが、経済状況が厳しいなかで民間の関心が高いというのは、恵まれた大変好ましい結果だと思います。ただ、需要が高い時期が2～5年くらいの時期なので、こちらの準備する側がスピード感が不足しないようにしないといけない、スピード感をもってやらなければ需要の状況が変わってくるのではないかと、そういった心配をいたします。文系地区の移転も早くやらないと、この民間アンケートの結果のような関心が高い状況がいつまでも続くとは考えない方がいいのではないかと思います。また、市の財政状況の資料がついていますが、財政が厳しいのは県も国も同じで、そういったなかで公的なものは必要最小限にならざるを得ないと思います。ビジョンに沿って、民間がいろいろな形でたくさん出てきていただくのはいいことだと思います。そういうことで地域として一番いい形でのベストミックスになればいいのではないかと思います。</p>
出口委員長	<p>ありがとうございます。では、益村委員お願いいたします。</p>
益村委員	<p>私もニーズ調査には異論はありません。ただ、何人かの方々のご指摘されていますように、なぜ委託先が都市再生機構なのかということに素朴な疑問を感じました。もう一つは先ほど山内委員からもご指摘がありましたように、まちづくりの方針に沿った企業を選定したというところで、ではどういった観点から、どういう企業を選定されたのか、その政策決定メカニズムのところをもう少し明らかにしてほしいということです。こういうことをやること自体に反対ということではなくて、調査方法についての詳細を明らかにしてほしいと思います。</p>
山内委員	<p>そもそも、この土地は国営財産の処分についての委員会で公共のための処分をなささいということのを重い位置付けで述べてあります。我々はそのことを踏まえて、それに沿った処分の方法を努力しないといけないのではないかと考えています。先ほどの発言のように民間が入ってこないが無理ということであれば、そういうふうな立場で九州大学の跡地処分を検討するのはまずいのではないかと思います。</p>
出口委員長	<p>内容についてのご質問もございましたが、この委員会で最終的に提言書を取りまとめていく際に、今回の議題3の取り扱いをどうするかという問題だと思います。少なくとも参考資料としては使ってよいのではないかとご意見いただきました。委員会で主催したアンケートではないので、本編に入れるのはどうかと思います。実状を探るという意味で、本来ならもっと早くこのアンケートを取るべきだったと思いますが、委員会が開催された後にとるということ自体に問題があるのではないかとご</p>

	指摘もいただいたと思いますが、今後、参考資料として取り扱うことを検討させていただければと思います。
山内委員	私は一般的にこういった調査をすることに対して反対ではありません。やったほうがいいと思います。問題は先ほど言ったようなことで、ここに出されているのでこれは承服できないということです。できればこの資料から外してほしいと思います。
出口委員長	最終的な提言書を作る段階で入れるかどうか、まずは事務局で検討ください。ここに出すのであれば、先ほど益村委員からご質問ありましたが、アンケートの企業を絞り込んでいったプロセスも明らかにしていけないと、このアンケートの客観性が問われていくと思います。客観性はどうかだったのかという点もできれば確認しておきたいと思います。この委員会の場で今、何かお答えできますか。それとも宿題にしますか。
三浦委員	7Pの右側に方針に沿った形の業種を掲げまして、その上で、県内の企業を網羅的に、全国展開をされているところも入れておいた方がよいのではないかと相談をしながら、選定していったと記憶しておりますけれども、それより細かいご報告は宿題ということにさせていただきます。
出口委員長	314社ですから、かなり幅広く実施されたのではないかと思います。この説明の仕方がよくないのかもしれない。参考資料として入れるとしても客観性のあるアンケートであることが確認できる内容に整理していただければと思います。
福原委員	宿題ということになりましたが、URの土地利用の豊富な経験から、協力の依頼をいただきURとして調査させていただいたというのが基本的なところです。
出口委員長	できるだけガラス張りで進めていただければと思います。強いご意見があったということ念頭において今後ご検討ください。今の一連のご意見についてはよろしいでしょうか。他に議題2、3の内容について、ご確認があればお願いしたいと思います。事務局でかなり整理していただけていますが、これで整理の仕方はよろしいということであれば、先に進めさせていただきます。概ね方針に対しては感触として、良好なご意見を多くいただいていると思っています。では、松田委員お願いします。
松田委員	<p>市民意見の記載で、資料1-2のほうに導入施設への意見の例示を入れていただいているのですが、方針1-3の文化・スポーツ・コンベンションを通じた交流とにぎわいの創出の部分で文化発信機能にかなり具体的なイメージが増えていて、2-1の教育・人材育成機能のところもかなり増えているのですが、例えば国際的な都市間の競争力の比較等を見ますと、どうしても福岡は国際的にみると文化発信機能が弱いという位置にある中で、箱崎の土地で担う機能が福岡全体としての機能強化につながっていくものと、この地域だけで終わるものがあると思うので、今後はこういうものが加わることによって、跡地利用の例示だけでなく、波及効果を知りたいと思います。コンベンション機能についても、福岡市都市圏全体のコンベンション施設の分布をみていますが、東区は薄いので、ホテル等の機能も薄いので、今は事例として方針1のところを話していますが、全体の中でこれが加わることによってどうなのかというのを今後は確認をしていきたいと感じました。</p> <p>アンケート結果について、回答された企業の業種を見ますと、方針1に関して、新産業創造や商業というのは、結果的には非常に少ないのですが、そのなかで10Pの一番下の望まれる導入機能のところ、新産業創造機能と医療福祉機能が非常に期待が高いということ、どのように読んだらいいのかということが1点です。9PのA、B、C、Dのご回答の背景として、ロケーションやゾーンのもつ可能性を判断しての解答なのか、先ほども貞刈委員から出ましたが、ニーズの時期が短期的なのか、使用可能である時期が何かの影響があるのか、もし何か分かることがあれば教えて下さい。</p>
三浦委員	アンケートにつきまして、大急ぎでまとめた部分がございますので、クロス分析をきちんとして、回答のあった企業の皆さんが回答されているところと、需要ありの方

	<p>だけがお答えになった部分ときちんと見てみないとアンケートとして不十分な部分があると思います。</p> <p>2-5年という期間を設定したのは、URさんをご相談させていただく時に、31年度までというふうになっているが、7年先の計画を企業は造れないというお話がありました。もっと短い期間の意向確認でないとそもそもアンケートにならないというご指導いただいた部分もありまして、そういう年数を設定させていただいたという点があります。先ほど、貞刈委員からもお話いただいたように、そういう意味ではゆっくりしている場合ではないというのはまさにご指摘の通りであると思います。</p>
出口委員長	<p>これから分析を深めていかなければならない部分もありましたので、それは宿題のような形でよろしいでしょうか。</p>
田代委員	<p>回答53社の企業の所在地、九州の企業なのか、東京の企業なのか教えていただきたいと思います。</p> <p>資料1-2の3PにあるQ5は、グラフ等にはありませんでしたが、開示できるものがあれば教えていただきたいと思います。</p>
事務局 (岡野)	<p>ご回答いただいた53社は名前も公表しないということになっております。東京本社にお送りしたものもありますし、地元企業もあります。今お出しすることはできず申し訳ありません。</p> <p>Q5についてですが、この設問に対しての回答を出していないのは将来ビジョン検討委員会の参考になるかわからなかったもので、今回は出さなかったということです。土地を購入、分譲・賃貸を行うというご意見が多かったと記憶しています。</p>
出口委員長	<p>冒頭の質問とも関連しますし、合わせて企業業態、立地場所といったものもアンケート結果を共有する上で重要だと思います。整理していただくようお願いします。他に何かございますか。よろしければ次の議題4、5に移り、ご意見、ご質問等をお願いしたいと思います。資料で言いますと、資料の1-1-12Pからになります。</p>
箱嶋委員	<p>歴史文化資源の活用ということで13Pに載っていますが、現在検討中で調査結果がまとまっていないということなのですが、空間利用や都市基盤をどのようにもっていくかという時に、あらかじめ呈示していただけないかという場での議論ができないのではないかと思います。中間報告でも出していただければよかったのかと思います。空間構成などは建物をどのように利用するかということの議論も出てくるかと思っております。</p> <p>もう一点、第1回目か2回目のときにご質問をしたのですが、近代建築物を利用して九州大学の総合博物館等という形で利用できるように、九州大学の地元貢献といえますか、そういう形で活用を図れないだろうかというご意見を申し上げたのですが、そのときは答えがなく曖昧なお返事だったので、そのあたりを含めてそろそろ呈示してもらいたいと思います。</p>
出口委員長	<p>二点ございました。一つは歴史文化遺産の活用について、もう少し具体的に対象をあげてほしいということです。次回ワーキングで検討し、今、九州大学が利用している近代建築の保存状態、現況についての調査結果を出していただけるということです。その際にまた改めてご議論いただきたいと思います。二点目ですが、九州大学の博物館をこの箱崎につくるというご提案がありましたが、そういったアイデアに関して、九州大学として如何でしょうかということです。</p>
三浦委員	<p>私が九州大学を代表してということではないのですが、箱崎のキャンパスの土地についてはすべて売却をするようにということが基本的な前提となっております。博物館に限らず、九州大学としての組織、施設が残るとするのは現在の国との関係において難しいかと思っております。前回の委員会でも申し上げた記憶があるのですが、様々な防災の話もありましたし、今回の修正でサテライトキャンパスの話も書いてございました。まちづくり全体に、九州大学として積極的に関わっていきたいという思いは前回も申し上げた通りでございますので、そういった形で関わっていただければありがたいと</p>

	<p>考えております。</p>
中村委員	<p>今のことに少し関連すると思いますが、福岡のいろいろな観光地を紹介するときに、古いものなら鴻臚館、中世なら博多周辺のお寺があります。近代というものを出そうとするときに正確に調べたわけではないですが、説明する場所がなかなかない気がします。九州大学が100年間この地で培ってきたもの、近代に貢献した財産が相当あるのではないかと思います。そういうものが見られる場所がここに残っていくというのは、人を連れて行くことができる場所ができると市民全体にもものうれしいことになるのではないかと思います。いろいろと難しい面はあると思うのですが、九州大学の近代の100年の歴史が継承され、また、市民にも紹介できるような、観光にも役立てるものができればいいと思います。</p>
斉藤委員	<p>議題としてはゾーニングのことがこのあとに出ていますが、資料の13Pに出ておりますので、議題に沿っていると思いをします。その前に我々4校区の代表が委員会に出てきている気持ちを私なりの考えとして、皆さん方との立場の違いをお話しておきたいと思います。46haの九州大学の跡地を考えて、且つ、同時に街全体のことを考えたその上での、九州大学の跡地をどうするかというのを委員会中でも話しているわけです。我々4校区がきているのはこの形の上での土地・建物だけではなく、100年間営んできた九州大学と私たちは一緒に生活してきました。その意味では営みの関係がこの中には見えていない。今までの営みの文化歴史を大切にす観点でどのように活用されるかということで、我々4校区が関わりを持つ必要がある。そういう意味で我々4校区としてはこの跡地利用についての関心があって、4校区で代表としてきている立場だと思っている。結論から言えば、まちづくりというものを跡地部分だけでなくもう少し広げて考えてほしいと思います。具体的には、4校区の活動内容と、どう文化的につながるか、残すものは残し、新しいものができるという前提でありますけれども、それについてもこの街の癖、文化とどうつながるか、あとでの議論となるのでしょうか、16Pのところ、箱崎駅のところの流れが少ないような気がしますし、もっと言えば、管崎宮との流れ、ブルーグレーの輪の部分、このあたりの部分を我々深く掘り下げて、それから九州大学の跡地のところをどうしていくべきなのかを議論することが、我々4校区が来ている意味なのではないかと思います。</p>
出口委員長	<p>4校区が持たれているビジョンともう少しすり合わせる必要があるという意見でよろしいですか。4校区が持たれているご自分たち街を将来こうしたいというものや、こういう課題を抱えているのでこういう方向に街をもっていきたいという方針をこの中に反映していただくようなことですか。</p>
斉藤委員	<p>委員会のなかの雰囲気として対立的な構図がありますので、地元エゴではなく、地域との関係を前向きな考えと理解いただくと有難い。そして、(地元説明会ではなく)本来の委員会の流れができると、他の委員の皆様方も意見が出やすいのではと思います。</p>
事務局 (林)	<p>ご意見ありがとうございます。今回の資料についてはそこまで掘り下げた資料になっていない部分がございますが、私共としましては、例えば14Pのゾーニングに書いてございますが、歴史・文化資源と箱崎キャンパスを結ぶルートづくりは、実はこの地域が取り組まれていることをもっとこのキャンパスにも活かしていきたいという思いを書いているところでございます。そういったところを随所に入れさせていただいているのですが、わかりにくいということと、もう少し具体的に周辺との調和をいれたほうがいいのかというご提案はいただきながら、さらに整理をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。</p>
斉藤委員	<p>御承知のように福岡市が行った28haの区画整理に、私の記憶だと500億程使っていると思いますが、そういったところと連動してやっていく必要があるのではないかと。区画整理の場合はコンセプトやテーマがあります。今回もここでしっかり議論してまとめると、アンケート下さった方にも納得していただけるのではと思います。</p>

出口委員長	貴重なご意見ありがとうございます。資料でいうと、13Pに急に跡地にフォーカスされる印象を受けますので、12Pと13Pの間にもう少し広域的な内容を入れ、徐々に絞り込んでいくプロセスが表現されると良いのではないかと思います。そうしないと地域との関係が希薄に見えてしまうということかと思えます。また次の会議までに全体の構成を考えていただければと思います。
漆間委員	資料構成についてですが、12P、13Pに都市基盤・空間構成の視点が書いてあって、さらに14P、15Pにそれに基づく詳細な考え方がまとめられており、そこまではよくわかるのですが、その都市基盤・空間構成の考え方と16Pのゾーニングとのつながりが明確な形で見えないと感じます。先ほどの事務局のお話を伺うとよくわかるので、もう少し説明資料の中で丁寧に説明いただければ、ゾーニングまで話がつながっていくような気がします。
出口委員長	実際にどうでしょうか。その間をつないでいくようなビジョンはありますでしょうか。使えるような絵柄になっているものがあるでしょうか。
事務局 (林)	今、直接的にあるというわけではないのですが、ゾーニングでは少し配置の考え方を落としていますので、周辺とどう強くつながっていくのかというところもご意見いただきながら作り込んでいかせていただければと思っております。
出口委員長	先ほど、松田委員からご発言がありましたが、資料1-2で導入機能の例示だけでなく、地域への期待される効果も言及していただくと、地域との関連が見えてくるのではないかと思います。実際に箱崎の商店街の方々が地域をどのようにしたいのかというところが問題ですが、私も長年、箱崎で仕事をしておりましたが、なかなかそのあたりが見えていないと思います。地域の抱えている深刻な課題と、九州大学の跡地に入る機能がどう関わってくるのかという関係性を見せる必要があると思います。
安部委員	資料の17Pなのですが、先ほどもお話がありましたが、第Ⅲステージの施設整備費は、箱崎キャンパス跡地等の売却収入で賄うという記載がありまして、この点につきましては、第2回の資料にも出ていたかと思いますが、施設整備費は箱崎の売却収入で賄うという点につきましては、もう少し具体的なイメージと伺いますか、データまでは難しいかとも思いますが、特に、売却収入というのは将来のことでありますので、算定しにくいかと思いますが、施設整備費につきましては、このくらいかかるというような点につきましては、差支えなければ教えていただければと思います。その中身次第では、今、皆さんから出ているご意見に制約が出てくるのではないかと危惧される部分もありますので、少し具体的なものを教えていただけると有難いかと思います。
出口委員長	委員会資料2によると書いてありますが、実際には委員会で決めたことではなくて、国の方で決められている方針にもとづき、九州大学がご苦労しながらプロジェクトを進めていらっしゃるの、金額までは難しいと思いますが。
三浦委員	おっしゃる通りで、国立大学の統合移転は過去にも例がありますが、すべて基本はこのような形です。タイムラグがあって、引っ越さないと売却できないわけなので、その前に建設しなければいけません。あとで帳尻が合うようにしなさいというのが国の意向ということになります。ということで、毎年度毎年度着手していかどうか決めます。ですから、今回については、理学系はどうぞ、文系はまだまだこの段階ではいいと言えないということです。一般論として申し上げれば、国の財政状況も厳しい状況で高く売却しなさいということはあると思いますが、高く売ればいいということを我々は考えているわけではなくて、だからこそ、こういった場で有識者の方々からご意見をいただいた上でその方針に則って進めていきたいと考えているところでございます。
出口委員長	当然、施設の整備と土地の売却ではタイムラグが出てくるということですね。今の、基本的な考え方だったと思います。
鈴木委員	今のお話少し関連するのですが、17Pの資料の使い方について、最終的にどのよ

	<p>うに使われるのか、若干違和感あります。土地利用に関する4つの基本方針というのはある意味当然のもので、当然の内容をここにかけられている理由は何でしょうか。下の方に進め方のイメージがありますが、むしろこちらのほうをどう認識しているのか、少し資料の位置付けがわからないと思いました。今の、安部委員からの話のようにタイムラグがあるのはわかりますが、お金が出たり、入ったりするボリューム感がわからないので議論ができていない部分があるかと思います。国が決めたという話がありますけれども、箱崎キャンパス跡地の売却収入で賄うとあるが、箱崎キャンパス跡地の売却収入等で賄うということではないのかと思います。国はそうはおっしゃらないと思うが、等はどちらに入るのかというふうになってしまうので少し、議論がかみ合わないかと思いますというのが感想です。</p>
齊藤委員	<p>三浦委員のお話は、前回の委員会のなかでどのように売なのか（九大がどんな考えで土地を売なのかその思い）という質問に対する回答ということによろしいですか</p>
事務局 (岡野)	<p>そうです。</p>
出口委員長	<p>いろいろとご質問いただいたので、あえて今回ご提示いただいたということだと思います。実際にどの程度の事業のボリューム感なのかというお話がありましたが、金額については公開されているものがありますか。ご想像にお任せしますということになるでしょうか。17Pに対してご質問いただいておりますが、敢えてこの方針を書いたということは、複合機能として具体的に開発していきたいということの国に対する説明の文章でもあるかと思います。国としてはできるだけ早く処分して国の財政に迷惑をかけないでほしいということを九州大学としては言われていると思います。そういう意味では地元との挟み撃ちにあって大変苦しいお立場であると理解していますが、その上でこの基本方針を提示されたのは、地元への説明であるとともに、国に対する意思表示の意味もあると思います。</p>
山内委員	<p>二つあります。新聞で見ましたが、医療関係の九州大学が持っている資料を集めて保存する建物をつくるのでしょうか。</p>
事務局 (岡野)	<p>申し訳ございませんが、まだ把握しておりません。</p>
山内委員	<p>九州大学移転といいますが、けっこういろいろとつくっているのではないかという意見を良く聞きます。確かに新しいものが出来たりしています。今言ったものが一つの例ですが、どこでそういったものが検討されて、跡地検討されている場所では検討されているのかを聞きたいと思います。ずっと資料を見ていて、16Pの右、「安全・安心・健やかに暮らす環境づくりを進めるゾーン」というところの下から2行目に防災機能という言葉が出てきますが、この中には、イメージとしては我々が防災ステーションを核にした跡地利用をという提案をしています。そのことでしょうか。最初はそういった言葉がありましたが、いつのまにか消えているので、もうそういったものはなくそうということになったのか知りたいと思います。なくさないでほしいと思っています。</p>
出口委員長	<p>九州大学はまだこのキャンパスで活動しているので、そこで活動している学生、教職員のために、作る必要のあるものが作られているのだと思います。跡地とどのような関係があるのかというご質問でしょうか。移転は決まっているので、恒久的な建物は作り難いと思いますので、主にプレハブなどで対応されていると思いますが。活動している学生たちもいる中で、箱崎での活動を衰退させるわけにはいきませんので、九州大学としても必死に予算を取ってこられて、主に仮設的な建物で代用していると思います。</p> <p>九州大学の活力を維持するために進められているのだと思います。医療関係の話は調べておいていただいてよろしいですか。防災ステーションについては事務局よろしいでしょうか。</p>

事務局 (林)	今、山内委員が言われた防災ステーションはまちづくりの方針の3の例示のなか に示していて、ずっと示させていただいて今も変わっておりません。今のゾーニ ングのなか全部書くわけにいかないので、大項目の中のキーワードとして抜粋して おり、防災機能として、示しております。今後どう検討していくかというところは前 回の議論もありましたが、首都圏バックアップ機能、今回提示させていただいて おりますオープンスペースでの防災の考え方を含め、防災についてはかなり検討 していきたいテーマとして述べさせていただきたいと考えています。
松田委員	15Pの空間構成の考え方についてですが、基本的な考え方の1、2がどちらかとい うと景観、3番目のところが、まちづくり運営のルール作り、組織作りの話になっ ているかと思うのですが、こういったハードとシステムの他に、その上の上のって くるプログラム、ソフトが重要になってくると思うので、そのあたりを今すでに 生活している方々が持っているもの、これから新しい街を作っていくところ のってくるプログラムや考え方が少し見えにくくて、先ほどの齊藤委員の 発言があったと思うので、空間構成の考え方と、これから関わっていく 主体者の方々がソフトも作っていくのだという雰囲気があるのではないかと 思います。ルールを作って組織運営して終わりというように見えてしま いますので、お願いします。
福原委員	関連した話もありますが、齊藤委員の話に近い話ですが、九州大学とのつ ながりで一体感を目指すという言葉はありますが、周辺とどう関わっていくか という空間的なところがこの中にあまり示されていない。特に周辺の低層住宅 と地区の南側が接近している。どう調和するか、周辺とのからみを先ほど の齊藤委員の話と合わせて、次回はもう少し入れていただきたいと思 います。今、お話に出た15Pの空間構成の考え方は、一点一点見ると、非 常に壮大な事を書かれているのですが、網羅的に書きすぎていて、何を やるのかというのが、わかりにくくなっていると思います。また、提言を していこうということで考えると、言葉があまり適切ではないのではない かと思えます。目指すというような表現はよいと思えますが、創出など という言葉は違うと思えます。言葉を整理していただき、また、本編と 補足的なものを整理したほうがよいのではないかと思います。
出口委員 長	事務局よろしいでしょうか。具体的なお意見をいただいたので、整理して いただくようにお願いします。
箱嶋委員	17Pの跡地処分に当たっての②の移転後の速やかな跡地利用について、一 括処分なのか、分割処分なのかというのは書かれていないのですが、ど ちらでしょうか。また、地元貢献の話は先ほどしましたが、九州大学が 全部売却して、その部分だけを九州大学が買い戻すこととはできない のか、そういう考えもあるのではないかと思いますのでお尋ねしたいと思 います。
出口委員 長	おそらく後者についての問題は財源だと思います。私も東京大学にお りますが、国からの予算で100%というのは難しいと思います。他の 大学を見ても、国と九州大学と民間などの組み合わせなど、何らかの ファイナンスの工夫が必要になってくると思えます。 もう一つ、二つ目の○(マル)について移転後の速やかな跡地利用 についてですが、この中のプライオリティについての質問でしょうか。
箱嶋委員	考え方はどちらなのか、一体的なのか、分割なのかということです。
出口委員 長	おそらくバランスをとるという答えだと思います。

三浦委員	<p>どちらか一方でという話ではないと思います。周辺地域までを含めたまちづくりという考えをまとめていくなかで、まず、提言を本委員会としてまとめていただきます。その上で事業者、公的な部分がどこまで入ってくるかわかりませんが、どういった人たちがどう担っていただくのかというところで、この部分はの人たちが担うということもあるかもしれませんが、一体的なということもあるかもしれません。ここに書いてある2番目の○（マル）の意味は、「空き地のまま長い間放っておくということではいけないので速やかに行う」という趣旨で書かせていただいたということです。最初におっしゃった通り、将来ビジョンの実現という所にそれ以下の話はすべて含まれるということです。資料の作りがそういった意味でよろしくなかったと思います。</p>
出口委員長	<p>3番目の○（マル）と4番目の○（マル）は結果的に一体感のあるものにしていきたいという事項ですが、2番目の○（マル）はプロセスについての事項だと思います。プロセスについては、スピードを上げ、結果として一体感のある街にしていきたいということだと思いますが、今の時点ではそうした方針を理解をしていただくたのものということになるかと思っています。</p>
斉藤委員	<p>14Pの3番の新しい生活というのはどういうことなのでしょう。この委員会で議論すべきことは先ほどから申し上げていますように、この新しい生活というのはどういうものなのかということ、言葉は解りますが、どういうものが好ましいのか、どういうものを作り上げていくのかということ、これを委員会で議論したいと思います。それを市や大学が出すのではなく、我々がこの委員会の中で、ここでいう新しい生活というのはこういうことだろうという、ここでいう新しい考え方はこういうことだというのがわかるような気がします。他のことについてもすべてそういった視点でやるべきだと思います。</p>
出口委員長	<p>ありがとうございます。改めてこの委員会の姿勢を確認させていただきました。</p>
中村委員	<p>16Pの図の話ですが、経済界としては「成長・活力・交流を生み出す機能」というあたりに一番興味があるのですが、この四角の中だけに入っているようなイメージで、上の方は国道3号線から周辺地域が入っているようなイメージだが、何か隔離されたようなイメージで、イメージとしては誤解を与えるのではないかと思います。もう少し駅を大きくする等、このゾーンが広がりを与えるような形を作ってもらいたいと思います。</p>
事務局（林）	<p>補足させていただきます。ここに限定しているわけではございません。</p>
出口委員長	<p>既に2回ほど前の委員会でまちづくりの方針案を提示していただきましたが、それを起点として、12Pのフロー図にありますようにシナリオを整理していただきました。今日はゾーニング、都市基盤、空間構成の考え方を提示していただきました。いろいろ課題点を挙げていただき、修正の方向性についてのご意見もいただきましたが、追加でご意見があればお願いします。今回、約3ヶ月半の間にパブリックコメントをとっていただき、一般のご関心がある方々からのご意見いただきましたが、このまちづくりの方針については、概ねご支援いただけるようなご意見だったかと思っています。方針は概ねこの委員会としては固めさせていただき、それ以降については今日、いろいろとご意見をいただきましたので、最終的なビジョンの内容については次回に全体案を提示していただき、ご協議いただきたいと思っています。よろしいでしょうか。</p>
事務局（林）	<p>了解しました。</p>

<p>出口委員長</p>	<p>それでは、まとめに入らせていただきます。</p> <p>この委員会としては、まちづくりの方針として、この5つの方針をその後の構成やゾーニングの抛り所とすることで進めさせていただきます。</p> <p>その後の構成についてですが、この委員会はスタート時から平成24年度中にビジョンを取りまとめて、総長、市長に提言することになっています。今日から後半戦に入っていますが、あと1, 2回でとりまとめをしたいと考えております。それを念頭においた上で、将来ビジョンの構成案が資料1P目右側に書かれており、今日は4番目から9番目に関わるところを提示していただきました。項目の順番などは、全体的に見た時に読み手が理解しやすい構成に柔軟に変えていただいてもよいかと思いますが、一応、この目次構成を基にして、将来ビジョンの構成案全体を次回に提示していただきたいと思っております。かなりの意見を委員の方々に出していただいたと思っております。前回と同じ意見が今回も発言されており、意見が出尽くしたような感じもあるかと思っておりますが、まずは全体構成について、事務局から案を提示していただき、その上で次回に臨ませていただきたいと思っております。</p> <p>今日のポイントは、都市基盤、空間構成、土地利用のビジョンについての骨格部分の案を提示していただきました。1, 2回目で議論した福岡市全体の中でのこの地区の位置付けや、日本列島全体というのは言い過ぎかもしれませんが、広域的な観点からこの地域のポテンシャルや位置づけを捉え、シナリオをまとめていただく必要があると思っております。具体的には、空間構成、都市基盤、土地利用に入る前に、もう少し広域的な視点を加える必要があるかと思っております。おそらく三段階くらいあるかもしれませんが。国全体の動きや国土計画から見た時のこの地域について、次に福岡都市圏から見た位置付け、三番目は、先ほど地元の4校区の方から意見が出ていましたけれども、箱崎地域から見たビジョンです。それから、都市基盤、空間構成の章に入っていくといった構成の流れの方が分かりやすいのではないかというご意見が、皆さまから出していただいた修正の方向性のご意見だったかと思っております。そういった方向性で考えていただければと思っております。</p> <p>九州大学で取られた事業者アンケートについては、参考資料という位置づけにするための条件について、いろいろと意見を出していただきました。特に客観性についての問題を明確にした上で、最終的な提言書に盛り込んでいけるかどうかを検討していただきたいと思っております。</p> <p>坂井先生から何かございますか。</p>
<p>坂井委員</p>	<p>今のお話でだいたいまとめていただき、次に移ることができると思っております。</p> <p>斉藤委員の話で、地域とどう文化的につながっていくかという点で、箱崎連続立体交差事業でお考えになっていたことくらいまでは振り返り、そこでお考えになっていたことなどをここに反映できればと思っております。</p>
<p>出口委員長</p>	<p>地域と共に発展していける跡地ビジョンをつくりあげていきたいという点は皆さん共通の思いと思っております。地域が寂しくなってきた感じもしますが、地元の方々もご尽力されているので、波及効果を生み出す跡地利用のビジョンにしたいという思いを本日のまとめの言葉とし、事務局で今後の取りまとめをお願いしたいと思います。事務局に進行をお返しします。</p>
<p>5. 閉会</p>	
<p>事務局 (岡野)</p>	<p>本日は、お忙しい中お集りいただき、活発なご議論ありがとうございました。いくつかの作業についてはご指導いただきましたので、鋭意進めていきたいと思っております。</p> <p>以上をもちまして、第4回九州大学箱崎キャンパス跡地利用将来ビジョン検討委員会を閉会とさせていただきます。</p> <p>今回は、年末もしくは年明けの開催を予定しております。詳細につきましては、後日ご案内しますので、どうぞよろしくお願いたします。</p>

以上